

9-1 主観的包括的評価（SGA）で用いる評価項目である。誤っているのはどれか。1つ選べ。

- (1) 体重変化 ○
- (2) 消化器症状 ○
- (3) 食物摂取状況 ○
- (4) 血清アルブミン値 ×
- (5) 上腕三頭筋皮下脂肪厚 ○

9-2 入院患者に2,000 kcal、たんぱく質 62.5 gの常食を提供した。この食事の NPC / N（非たんぱく質エネルギー／窒素）比（kcal / gN）である。正しいのはどれか。1つ選べ。

- (1) 150
- (2) 175
- (3) 200
- (4) 225
- (5) 250

$$\begin{aligned}
 \text{NPC} &= \text{総エネルギー (kcal)} - \{ \text{たんぱく質 (g)} \times 4 \text{ (kcal / g)} \} \\
 &= 2,000 - (62.5 \times 4) \\
 &= 1,750 \text{ (kcal)} \\
 \text{N} &= \text{たんぱく質 (g)} / 6.25 \\
 &= 62.5 / 6.25 \\
 &= 10 \text{ (g)} \\
 \therefore \text{NPC / N} &= 1,750 / 10 \\
 &= 175 \text{ (kcal / gN)}
 \end{aligned}$$

NPC / N 比の適正範囲

- 熱傷・外傷：80 ～ 150 kcal / gN
- 肝不全（非代償期）・腎不全：200 kcal / gN 以上
- 常食：150 ～ 200 kcal / gN

9-3 肥満に関する記述である。正しいのはどれか。1つ選べ。

- (1) 原発性肥満では、体重管理と原因疾患の特定を平行して行う。
- (2) 症候性肥満は、過食と運動不足が主要因である。
- (3) 高度肥満は、BMI 45 kg / m² 以上をいう。
- (4) 超低エネルギー食は、600 kcal / 日とする。
- (5) インスリン感受性に異常はみられない。

※ 高度肥満は、BMI 35 kg / m² 以上

9-4 肝臓での糖新生を抑制作用のある経口糖尿病薬である。正しいのはどれか。1つ選べ。

- (1) ビグアナイド薬
- (2) チアゾリジン薬
- (3) スルホニル尿素薬
- (4) GLP-1 受容体作動薬
- (5) α -グルコシダーゼ阻害薬

9-5 非アルコール性脂肪性肝疾患（NAFLD）に関する記述である。正しいのはどれか。2つ選べ。

- (1) NAFLD は、皮下脂肪蓄積が発症や病態の進展に関与している。
- (2) NAFLD から、アルコール性脂肪肝へと進展する。
- (3) 食事療法では、精製された糖質を積極的に摂取する。
- (4) 糖尿病を合併している場合には、糖尿病の食事療法を実施する。
- (5) 運動療法では、有酸素運動を積極的に行う。

※ **NAFLD の発症や病態の進展に関与しているのは、内臓脂肪蓄積とそれに伴うインスリン抵抗性**

9-6 高尿酸血症・痛風に関する記述である。正しいのはどれか。1つ選べ。

- (1) 治療目標値は、血清尿酸値 8.0 mg / dL 未満である。
- (2) 乳製品の摂取は、制限する。
- (3) アルコールの過剰摂取は、厳に慎む。
- (4) プリン体摂取量は、600 mg / 日未満に制限する。
- (5) 痛風発作時には、尿酸排泄促進作用のあるプロベネシドを服用する。

※ **乳製品の摂取は血清尿酸値を低下させる。**

※ **プリン体摂取量は、400 mg / 日を超えないようにする。**

※ **尿酸排泄促進剤（プロベネシド、ベンズプロマロン）**

9-7 CKD（慢性腎臓病）に関する記述である。正しいのはどれか。1つ選べ。

- (1) CKD の診断基準は、糸球体濾過量（GFR）60 mL / 分 / 1.73 m² 未満が1か月以上持続することである。
- (2) 重症度分類には、蛋白尿、GFR、血清アルブミン値を用いる。
- (3) 腎性貧血では、大球性正色素性貧血を呈する。
- (4) ステージ1では、食塩摂取量は制限しない。
- (5) 利尿薬を服用する場合、血清カリウム濃度をモニタリングする。

CKD の定義：次の①、②のいずれか、または両方が3ヶ月以上持続する場合。

- ① **尿異常、画像診断、血液、病理で腎障害の存在が明らか、特に蛋白尿の存在が重要**
- ② **糸球体濾過量（GFR）60 mL / 分 / 1.73 m² 未満**

CKDの重症度：原因（Cause：C）、腎機能（GFR：G）、蛋白尿（アルブミン尿：A）によるCGA分類で評価

9-8 21歳女性、大学4年生。身長160cm、体重45kg。「半年前から立ち上がる瞬間などにふくらはぎがつりやすい」との訴えで来院した。来院時は、体温36.0℃、血圧90/62mmHg、脈拍88回/分。また、問診により、体重が1年で10kg減少したこと、月経は半年前から止まっていること、むし歯が3本あり治療中であること、頬の腫れが気になることを訴えていた。患者のふくらはぎがつるとい症状の原因として、最も適切なのはどれか。1つ選べ。

- (1) 筋肉痛
- (2) 熱中症
- (3) カリウム欠乏
- (4) ビタミンB₁欠乏

※ 摂食障害が疑われる。摂食障害の患者にみられる自己嘔吐は、口腔内の酸性化により虫歯になりやすく、また、唾液分泌量を増加させ、結果的に唾液腺が腫れやすくなる。

ビタミンB1欠乏：脚気、ウェルニッケ・コルサコフ症候群、乳酸アシドーシス

9-9 胃全摘術後の巨赤芽球性貧血に関する記述である。正しいのはどれか。2つ選べ。

- (1) 胃全摘直後に発症する。
- (2) 神経症状がみられる。
- (3) ハンター舌炎がみられる。
- (4) 血清総ビリルビン値の低下がみられる。
- (5) 葉酸の積極的な摂取を勧める。

※ ハンター舌炎：糸状乳頭と茸状乳頭が委縮して舌の表面が平滑になり、舌先の灼熱感や痛みを伴う赤色病変をハンター舌炎という。ビタミンB12欠乏による巨赤芽球性貧血でみられる。

※ DNA合成が障害された赤芽球は、その多くが赤血球になれず崩壊する。そのため赤芽球内のヘモグロビンが脾臓などで代謝されビリルビンとなり、血中に放出され、血清総ビリルビン値は高くなる。

9-10 妊娠糖尿病に関する記述である。正しいのはどれか。1つ選べ。

- (1) 妊娠糖尿病は、妊娠前より糖尿病と診断されている場合をいう。
- (2) 糖尿病合併妊娠では、児は出生後に高血糖になりやすい。
- (3) 妊娠糖尿病の患者では、妊娠高血圧症候群の合併頻度が低下する。
- (4) 妊娠時の血糖管理では、食事療法およびインスリン療法を行う。
- (5) 朝食前の血糖値は、120mg/dL以下を目標とする。

妊娠中の血糖コントロール目標

- 朝食前血糖値：70 ～ 100 mg / dL
- 食後2時間血糖値：120 mg / dL 未満
- HbA1c：6.2%未満

次の文を読み「9-11」、「9-12」に答えよ。

63歳、女性、主婦。身長158cm、体重50kg。50歳で肝硬変と診断された。全身倦怠感、食欲低下、腹水、くも状血管腫を認めた。血液検査所見は、AST 65 IU / L、ALT 72 IU / L、血清アルブミン 2.5 g / dL、血清アンモニア 93 μ g / dL（基準値 40 ～ 80 μ g / dL）であった。

9-11 本症例の病態および検査値の変動に関する記述である。正しいのはどれか。2つ選べ。

- (1) フィッシャー比の上昇
- (2) 血液凝固能の上昇
- (3) 血清ビリルビン値の上昇
- (4) 血漿膠質浸透圧の低下
- (5) 門脈圧の低下

9-12 本症例の栄養管理に関する記述である。正しいのはどれか。1つ選べ。

- (1) LES（Late Evening Snack）食を勧める。
- (2) 芳香族アミノ酸を摂取する。
- (3) たんぱく質摂取量を 2.0 g / kg 標準体重 / 日とする。
- (4) エネルギー摂取量を 20 ～ 25 kcal / kg 標準体重 / 日とする。
- (5) 食物繊維の摂取を制限する。

※ 高アンモニア血症、肝性脳症が認められる場合には、たんぱく質摂取量を 0.6 ～ 0.8 g / kg 標準体重 / 日に制限する。